



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリーに輝きを」 Light Up Rotary

2014-15年度 RI会長/ゲイリーC.K.ホアン RI.D2590ガバナー/大野 清一 横浜旭RC会長/増田嘉一郎

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F
TEL.045-365-3273
FAX.045-365-3132
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン
例会日 毎週水曜日/12時30分~1時30分



2015年2月4日 第2185回例会 VOL. 46 No. 29

■司 会 副SAA 二宮麻理子

■開会点鐘 会 長 増田嘉一郎

■齊 唱 君が代、奉仕の理想

SL 北澤 正浩

■出席報告

会 員 数	34 名	本日の出席数	26 名
本日の出席率	96.30%	修正出席率	96.67%

■本日の欠席者

斉藤

■他クラブ出席者

鈴木 (横浜瀬谷 RC)、新川 (地区)

■ビジター

杉本 賢司様 (第5グループガバナー補佐)

石川 正人様 (地区 IAC 委員長・横浜港北 RC)

平山紀美子様 (横浜港北 RC)

■ゲスト

石川 國樹様 (地区国際奉仕委員・横浜北 RC)

村橋 真理様

(NPO法人ピースフィールドジャパン理事)

■2月誕生記念祝

佐藤 真吾会員 2.6

■会長報告

1) 2月は世界理解月間です。私が所属しているボーイスカウトでは、今年の7月末から



2週間、山口県のきらら浜で第23回世界ジャンボリーが開かれ、世界中から2万5千人のスカウトや指導者達が日本に集まってきます。今、小学校1年生から大学生までの全国のスカウト達は世界中から日本にくるスカウトのため、世界の各国を分担して相手国と交信して互いに理解し合い、来日時にはホームステイを受け入れて交流の機会を設けるべく準備しています。当クラブは3期前のガバナーから要請に応じ、世界ジャンボリーのための協賛金を負担し、これを支援しております。今年の夏、町で外国のスカウトを見かけたら、2週間のキャンプ生活の後だと、少し汚く臭いですが、歓迎の声をかけていただければと思います。

また、当クラブでは、昨年10月久々の自主プロジェクトとして、旭区在住外国人を集めてのもちつき大会を実施でき、交流を深めました。

本日は、国際奉仕委員会の担当で、国際奉仕フォーラムとして、地区国際奉仕委員の石川國樹様とNPO法人ピースフィールドジャパンの村橋様をお迎え致しました。国際奉仕プロジェクトとはどうあるべきか、ロータリーの考える世界理解というものも併せて学び、今後の活動に生かしていければと思います。

2) 2月の別名は、如月(きさらぎ)です。漢字の如月は、中国の二月の異称をそのまま用いたもので、日本語のきさらぎとは、全く関係ないものです。この由来は、2月はまだ寒さが残っているので、衣(きぬ)を更に着る月であるから「衣更着(きさらぎ)」となったというのが、有力な見解です。

本日、2月4日は立春になります。二十四節気の1番目で旧暦では1年の始まりで、立春を基準に八十八夜など様々な決まりや節目の日が存在します。立春以降に初めて吹く南からの強風を春一番と呼びます。今でも正月を早春とか新春というのは、立春と正月が同じ頃に重なっていたためです。

3) 本日、週報に当クラブの定款を添付しております。事務所移転が問題となっているため、活動計画書に印刷されたクラブ定款をみたところ、第3条の所在地が現事務所所在地となっております。定款改正の必要がでてくるのかと思い、改正の方法を定めた19条を見たところ、第3条の改正のための第2節のところが記載されていなかったため、五十嵐さんに改めて全文の配布をお願いしたものです。19条第2節には、改正には、RI理事会の承認を得るとあります。そこで、国際ロータリー日本事務局クラブ・地区支援室に問い合わせたところ、第3条の当クラブの所在地は、設立以来神奈川県横浜市旭区となっているということで、活動計画書の定款第3条の記載が誤っていることが判明しました。ど

なたかが、事務所が移転した時にでも気をきかせてか、現在の事務所の住所を活動計画書の定款に書き込んでしまったようです。本日配布しましたものが本当の当クラブ定款だということす。ということで、仮に事務所を移転しても、定款改正手続は、必要ないということが判明致しました。

■幹事報告

1) 例会臨時変更のおしらせ

○横浜保土ヶ谷ロータリークラブ

日時 2月10日(火)休会

○横浜あざみロータリークラブ

日時 2月11日(水)休会

日時 2月25日(水)

第4・5グループ IM

場所 鶴見区民センター サルビアホール

■第4・第5グループ Intercity Meeting

石川 正人(地区 IAC 委員長)



テーマ 歴史に学び 未来を語る

開催日 2月25日(水)

登録 13時 開会 13時30分

会場 鶴見区民センター

サルビアホール4F

皆様、こんにちは。今回のIMでは、講演者として、関口昌幸氏(横浜市政策局政策部政策課担当係長)より、「人も企業も輝く横浜」の実現を目指す中期4カ年計画、未来を切り開くオープンデーターの推進、データーが切り拓く未来社会についての講演を予定しております。

第2部では、財団学友の方々のクラシック

コンサート、地域の文化発展のために活躍している方々、また公立学校の生徒さん達という地元の方々のパフォーマンスを予定しております。

事業の発展に今日直に関係はないと思いますが、文化芸術等にも関心を向けていただけたらとのプログラムを作りました。

皆さまの交流を通して IM 本来の意義をご理解して頂けたら、うれしいと思います。

■会員増強・職業分類委員会

後藤 英則

2月に予定されておりました体験例会は IM との関係で3月25日に変更になりました。

2月中頃には会員の皆様へ体験例会参加者を募るご案内を致しますが、今年度は出来るだけ多くの女性が体験例会に参加していただけるよう、ご協力をお願い致します。

■チャリティーコンサートご案内

二宮 登

今年、横浜市とマニラ市が1965年に姉妹友好都市を結んで50周年を迎えました。この間、半世紀に渡って市民レベルでの様々な国際交流を展開して参りました。

この度、姉妹提携50周年を記念してフィリピン、インドネシア、ベトナムから来日し、介護福祉の研修をされている若人を支援しようと「介護の担い手・世界に羽ばたく若人」と題し、チャリティーイベントを開催し、微力ながらサポートして行きたいと思っております。

横浜マニラ友好委員会では、この50周年を起点として、次世代に向けてグローバルな国際交流を進めたいと思っております。何卒この趣旨をご理解いただき、皆様のご協力をお願い申し上げます。

■ニコニコBOX(会員敬称略)

杉山賢司殿(第5グループガバナー補佐・新横浜RC) /遅くなりましたが、新年のご挨拶にうかがわせていただきました。今年もよろしくお願いたします。

石川正人殿(地区インターアクト委員長・横浜港北RC) /本日はインターアクトについてのお願いに参上しました。また、海外研修会においては、商大高校より2名の参加を得て、素晴らしい成果を挙げた事を報告致します。

平山紀美子殿(地区インターアクト副委員長・横浜港北RC) /本日はよろしくお願致します。次年度地区インターアクト委員長を勤めさせていただきます平山でございます。次年度のインターアクトの地区担当幹事校のお願にあがりました。どうぞよろしくお願致します。

増田嘉一郎 /①杉本ガバナー補佐、石川正人インターアクト委員長、ようこそいらっしゃいました。例会を楽しんで下さい。②石川國樹国際奉仕委員長、村橋様、卓話よろしくお願致します。楽しみにしています。

漆原恵利子 /①本日は国際奉仕フォーラム。石川様、村橋様よろしくお願いたします。

②インターアクト委員会、石川様、平山様、ようこそ。杉本ガバナー補佐ようこそ。

吉野 寧訓 /長いこと欠席して申し訳ありません。もう少しだと思ひます。

青木 邦弘 /①石川様、村橋様、今日のご無

理をお願いしました。よろしく申し上げます。
②書き損じの葉書、ありがとうございました。
本日送ります。

佐藤 真吾／①地区国際奉仕より石川様、また NPO 法人代表の村橋様、本日は卓話よろしく申し上げます。②杉本ガバナー補佐、地区インターアクトより石川様、平山様ようこそ。③誕生祝いをいただき有難うございます。

佐藤 利明／ガバナー補佐杉本様、地区インターアクト委員長石川様、副委員長平山様、地区国際奉仕委員長石川様、ピースフィールドジャパン理事長村橋様、ようこそおいでいただきました。

杉山 雅彦／佐藤真吾会員、お誕生日おめでとうございます。明日は雪が降るみたいです。皆さん、カゼなどひかれません様、暖かくしてお過ごし下さい。

安藤 達雄／①家内にきれいなお花をありがとうございます。②石川さん、村橋さんようこそ。

桜田 裕子／黒瀬さんとはお目にかかることなくお別れすることになりました。とても残念です。何年後かに天国でお目にかかりましょう。どうぞやすらかに。

北澤 正浩／村橋様、石川様ようこそいらっしやいました。卓話よろしくお願い致します。

安藤 公一／①石川様、村橋様、卓話宜しくお願ひ致します。②杉本ガバナー補佐ようこそお出で頂きました。

■卓話 国際奉仕フォーラム

“絆” KIZUNA プロジェクト

イスラエル・日本・パレスチナの対話交流プログラム
村橋 真理

2014 年も、国際ロータリー第 2590 地区のロータリークラブのみなさまからのご支援のもと、8 月 7 日から 21 日まで、「“絆” KIZUNA プロジェクト」を行いました。イスラエル、日本、パレスチナの青少年が、自然豊かな、自然と人が調和する暮らしが受け継がれてきた日本の里山で、対話と交流によって信頼醸成を行う活動です。三地域の参加者が、



持続可能な社会のモデルである里山で共に生活し、地域の人が育んできた暮らし、文化、伝統にふれる体験を共有することで、お互いを受け入れ、絆を築くと共に、持続可能で平和な社会を作るために何ができるのかを一緒に考える場を提供しています。これまでに、三地域から 142 人が参加しています。

横浜市内で、都会の環境の取組みについて学ばせていただいた後、山梨県小菅村での 10 日間の里山プログラムでは、日本の里山は持続可能なコミュニティのモデルであり、自然と人が共存し、自然の恵みで人の暮らしが成り立っていたこと、里山の様々な機能と価値、社会の変化による里山の危機的な現状について学び、畑仕事体験、そばうち体験、間伐体験、布草履作り体験等、村の方々に教えていただきながら、様々な自然、文化、伝統体験をしました。最後に、小菅村で学んだことをまとめ、村の暮らしが持続可能な社会の一つのモデルであることに気づき、プログラムの後に、自分たちの地域で何ができるのか、グループで話し合い、行動計画として発表しました。プログラム後、それぞれの地域で実践しています。

この活動の背景には、イスラエルによるパレスチナの占領が長く続き、解決の兆しが見えないという現実があります。イスラエルとパレスチナの間では、人々の行き来が制限され、特に若い世代は、相手を知る機会がなく、お互いに不信感と恐怖心を抱いています。持続可能な平和の実現のためには、将来を担う

"絆" KIZUNA プロジェクト

KIZUNA

～持続可能な社会作りを担う若者ネットワーク作り～

イスラエル、日本、パレスチナの青少年が、自然豊かな、自然と人が調和する暮らしが受け継がれてきた日本の里山で、対話と交流によって信頼醸成を行う活動です。

三地域の参加者が、持続可能な社会のモデルである里山で共に生活し、地域の人が育んできた暮らし、文化、伝統にふれる体験を共有することで、お互いを受け入れ、絆を築くと共に、持続可能で平和な社会を作るために何が出来るのかを一緒に考える場を提供しています。また、関った日本の青少年が、イスラエル、パレスチナを訪ねて交流を深め、フォローアップを行っています。

現在のイスラエル、パレスチナ地域では、お互いの行き来が制限され、特に子どもたちの世代は、反対側で暮らす人に会う機会がありません。イスラエル人にとっての、パレスチナ人はテロリスト、パレスチナ人にとってのイスラエル人は兵士か入植者というイメージしかありません。そんな中で、パレスチナの若い世代は怒りや憎しみを募らせ、イスラエルの若い世代は、高い壁で仕切られた向こう側に暮らすパレスチナ人のことを意識することがなくなっています。このため、この地域の平和の担い手となる若い世代が会い、お互いの話を聞き、信頼を育む場が必要とされています。

現地では出会う機会が限られている青少年が、日本で出合い、対話を重ねることで絆を築き、将来の持続可能な平和な社会作りに貢献することをめざしています。

2004年から2014年に、三地域から合計142名が参加しています。
2007年からは、参加者を女子としています。



SATOYAMA for Peace 実践的な平和構築のモデルとしての里山



参加者のコメント

- 自分の人生に大きな影響を与えました。
- 今は、平和の可能性を感じています。
- お互いの意見を聞くことで信頼が生まれました。
- 普段、一つの方向からしか物事を見ることができませんが、日本を離れ、日本に来たからこそ見えてきたことがあったと思います。
- 自然を大切にしながら暮らしている里山の方々から、多くを学びました。

青少年が、まずは個人と個人として相手を知る場が必要であるという、現地のニーズに基づいて行っています。

このプログラムは、「SATOYAMA for Peace」のコンセプトに基づいて行っています。日本の里山は、日本ならではの実践的な平和構築のモデルといえます。人と自然が共存する場であり、自然から暮らしに必要な恵みを得ているからこそ、自然に感謝し、大切にしながら日々の暮らしを営んでいる山梨県小菅村の方々から、参加者たちは、相互依存の関係性に気づきます。そして、人と自然の相互依存の関係性から、人と人との関係性、一緒にプログラムに参加している他の参加者との関係性に目を向け、体験を共有し一緒に生活する合宿生活を通して、お互いに信頼を育み、相手を同じ人として受け入れるようになります。

2014年夏は、ニュースでもご存知の通り、ガザのハマスとイスラエルが戦争状態にあり、そんな中での実施でした。それぞれが、家族や知り合いのことが気になりながらの2週間でしたが、相手を知ろうと心がけ、相手の文

化に関心を示し、共有できたことで、参加者たちは大きく変化していきました。様々なストーリーが繰り広げられながらも、最後のシェアリングでは、それぞれが他の参加者全員に対して愛情のこもった言葉を送り、相手のために涙しあい、たとえ信仰や考え方が違っても、相手を尊重し、人として受け入れあえるということを実感できたようです。現地情勢にもかかわらず、まずは相手を知るという第一歩を達成し、また、心と感情を共有するという次の段階にも到達することができたといえると思います。

いくつか、参加者のストーリーを紹介させていただきます。

パレスチナ人参加者の一人は、難民キャンプに住んでいます。これまでに、イスラエル人と会ったことはなく、「イスラエル」に対して、反感を持っていました。6月半ばに起きたイスラエル人少年の誘拐事件の捜索で、彼女が住んでいる難民キャンプにもイスラエル軍が入り、とても怖い一夜を過ごしたそうです。このことで、プログラムに参加して、イスラ

エル人参加者と一緒に過ごすことに恐怖を抱きながらの参加でした。そんな彼女が、プログラムが始まって3日目、赤レンガ倉庫での書道体験で、一緒にまわっていたイスラエル人参加者と一緒に“平和”の文字を書きました。そして、“これが平和なんだと思う。帰ったらまわりの人たちに話そうと思う”とつぶやきました。その後も、ホームステイの夜、一緒だったイスラエル人参加者と、お互いホームシックだからと手をつないで寝たエピソードを話してくれました。彼女は、パレスチナの伝統のダンス、ダプカのクラブに所属していて、日本でいろいろな人に見てもらいたいと話していましたが、イスラエル人参加者が教えてほしいと言ったことが嬉しかったようで、小菅村での最後の夜のお礼の会で、イスラエル人参加者と一緒に、村の方々に披露していました。

また、イスラエル人参加者、日本人参加者、パレスチナ人参加者一人ずつがチームになってホームステイに行った際、イスラエル人参加者とパレスチナ人参加者が、政治や情勢について、言い合いになってしまいました。日本人参加者の高校生は、話題を変えようとしたのですが、陰悪な雰囲気になってしまい、その後も、二人の間の橋渡しになろうと頑張っていました。人の心はパワフルで、そう簡単には変わるものではないということを目の当たりにし、いろいろ悩んだとふりかえています。しかし、様々な里山体験を一緒に行き、学び、また、ダンスやゲーム、散歩等の時間を共有できたことがよかったのか、最後のシェアリングの時に、そのイスラエル人参加者とパレスチナ人参加者が涙を流しながら、お互いにあたたかい言葉をかけあい、一緒に参加できたことへの感謝の言葉を言う場面がありました。複雑な思いを抱えながらも、目の前にいるのは、自分と同じ高校生で、それぞれが魅力的な個性を持っているということを感じたようです。日本人参加者は、その様子を見て、とても嬉しかったそうです。今では、

パレスチナ問題は単なる国際問題の一つではなく、自分の大事な友達を隔てる大きな壁になった、彼女たちが現地で会えるように、将来は国際機関に入ってがんばりたい、と感想文に書いています。

参加者たちのコメントの一部です。

- ・自分の人生に大きく影響を与えた。
- ・自分の目を開き、まったく違う目で物事をみられるようになった。
- ・信仰や考え方の違いに納得できなくても、一緒に生活し、一緒に楽しむことができた。本当に多くの人たちと絆を築けたと思う。
- ・村の方々から多くを学んだ。毎日の暮らしの中の小さな喜びに感謝すること、持ちつ持たれつの関係、心を開いて生きることが大切だと思った。
- ・自然を守るには、多くの知恵、人の力、決意が必要だということ学んだ。
- ・学んだ言葉、価値観を広めていきたい。

参加者たちは、このプログラムの経験を“life experience”だと言い、小さな活動ですがその分、お互いのつながりは強く、プログラム後もfacebookなどでやりとりが続いています。なかなか先の見通しが立たず、むしろ悪化していく一方の現地情勢の中で、実際に会って話してみる、このような機会の必要性が増しています。

毎年、会員として、あるいはご寄付、物品の提供によるサポート、様々な形でご支援いただく方々のおかげで、プログラムを続けていられています。2015年もプログラムを実施し、三地域の青少年たちに、将来のためにきっかけを与える機会を提供したいと考えております。是非多くの方のご支援をいただきたく、心よりお願い申し上げます。

■次週の卓話

2/25(水) 第4・5グループIMへ移動例会
場所 鶴見区民センターサルビアホール
週報担当 杉山 雅彦